

「北海道がん医療を担う医療人養成プログラム」
～地域がん医療の充実と最先端がん研究の推進～

平成24年度
がんプロフェッショナル
養成基盤推進プラン

事業報告書

ごあいさつ

北海道医療大学大学院 看護福祉学研究科長 野川 道子	4
北海道医療大学大学院 薬学研究科長 平藤 雅彦	5

北海道医療大学のがんプロフェッショナル養成基盤推進事業

01 「北海道がん医療を担う医療人養成プログラム ー地域がん医療の充実と最先端がん研究の推進ー」について	8
02 北海道医療大学の教育コース	10

平成24年度北海道医療大学 がん看護コース 事業報告

01 緩和ケアリソースナース養成プログラム	12
02 特別セミナー	25

平成24年度北海道医療大学 地域がん医療薬剤師コース(インテンシブ) 事業報告

地域がん医療薬剤師養成基礎講座	28
-----------------------	----

4大学連携プログラム 事業報告

01 地域がん医療人コース(インテンシブ)	34
02 市民公開講座	35

平成24年度 北海道医療大学担当者	36
-------------------------	----

がん医療に携わる 看護専門職の育成に向けて

北海道医療大学大学院 看護福祉学研究科長
野川 道子



平成24年度より5年間の計画である「北海道がん医療を担う医療人養成プログラム-地域がん医療の充実と最先端がん研究の推進-」がスタートしました。このプログラムは平成19年度～平成23年度に実施された北海道の総合力を生かす「がんプロフェッショナル養成プラン」を継続・発展するプログラムでもあります。本学大学院看護福祉学研究科は、旧プログラムにおいて「がん医療に携わるコメディカル養成コース」として修士課程でのがん看護の専門看護師の養成を、「がん医療に携わる専門医師等の研修(インテンシブ)コース」として臨床看護師の知識・技術の向上を目指すことに参画してまいりました。その成果といたしましては、がん看護の専門看護師を5名輩出するとともに、インテンシブコースでは、道内に点在するがん拠点病院において他職種協働による事例検討会を行い、ネットワークづくりや他職種連携の素地を築いてまいりました。

新プログラムでは、がん患者・家族が住み慣れた地域で安心して療養できるよう、ケアとキュアを統合した緩和ケアサービスが提供できるとともに、緩和ケアサービスを効果的にマネジメントし、地域において緩和ケアに携わる保健医療職などを支援するリソースナースとして活躍できる人材を養成する「緩和ケアリソースナース養成プログラム」に取り組むことにいたしました。具体的には、緩和ケアに携わ

るがん看護専門看護師を継続して養成するとともに、その専門的知識・技術を専門看護師の少ない地域においても、気軽に、かつ効果的に活用していただくための体制や仕組み作りに取り組んでいきます。

北海道は広域であり、がん医療においても地域間格差が大きいのが実状です。がんという病気によってもたらされる様々な苦痛を、効果的に除去または緩和できるようになることは、その人がその人らしく生きるうえでの重大事です。北海道のどこに住んでいても質の高いケアが受けられるよう、専門的知識・技術をもった保健医療福祉職の統合した力が北海道の隅々まで届けられるようになることを目指して邁進してまいります。がん医療に携わっている多職種の皆様のご参加とご協力をお願いいたします。

新たな「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」での薬学研究科の取り組み

北海道医療大学大学院 薬学研究科長
平藤 雅彦



がん予防やがん研究の推進、がん医療の均てん化の促進などの施策を打ち出したがん対策基本法の施行に伴い、平成19年度に文部科学省により採択された「北海道の総合力を生かすがんプロフェッショナル養成プログラム」が平成23年度末に終了し、平成24年度より新たに「北海道がん医療を担う医療人養成プログラム-地域がん医療の充実と最先端がん研究の推進-」がスタートしました。

がんに特化した医療人の育成を目的とした先のプログラムにおいて、薬学研究科では医療現場の薬剤師にがん医療に関する基礎知識や最先端の知識を学んで頂くことを目的としたインテンシブコースや、北海道内の医療施設が全国レベルの学会で発表した内容を紹介してもらい、道内薬剤師の情報交換とスキルアップをめざした「がん薬物療法研究討論会」を企画し、多くの参加者から高い評価を頂くことができました。

薬学研究科では新たなプログラムにおいても、「地域がん医療薬剤師コース(インテンシブコース)」を立ち上げ、本プログラムに参画しております。このインテンシブコースは、先進的がん化学療法や患者ケアに関わる高度な専門知識と臨床能力を持ち、他の薬剤師に対し指導的役割を担うとともに、地域におけるがん医療の推進について、他の医療スタッフと協働して実践することのできるリーダー的薬剤師を養成することを目的とするものです。今年度は、北海道内のがん拠点病院等の薬剤師や職能団体等との連携に

より、がん医療におけるレジメン管理など具体的事例および課題に関する3回の「地域がん医療薬剤師養成基礎講座」を開催しました。第3回目は「第2回がん薬物療法研究討論会」として開催し、道内の13医療施設から非常に興味深い研究内容の発表を頂き、大変有意義な討論会となりました。

また今後は、がん医療での緩和ケアチームにおける薬剤師の役割をテーマとしたプログラムや、がんターミナルケアなど、今後増大する地域の在宅ケアにかかわるニーズに対応するため、これまで対象となることが少なかった保険薬局薬剤師を対象とした地域ニーズに即したプログラムを展開することを企画しております。

近年、分子標的治療薬を始めとして新しい抗がん剤が次々と開発され、非常に数多くの抗がん剤が臨床で使用されています。それらの最新の知識ばかりではなく、それらを利用した複雑で多くのレジメンの知識、管理、さらには抗がん剤による悪心・嘔吐や神経障害性疼痛などの様々な有害事象に対する支持療法薬剤の知識と適正使用など、がん医療に携わる薬剤師の重要性、必要性はますます高まっています。薬学研究科では、新たなプログラムにおいても引き続き北海道におけるがん医療の向上に少しでも寄与できる取り組みを続けていきたいと考えておりますので、皆様の更なるご支援とご協力をお願い申し上げます。

北海道医療大学の がんプロフェッショナル 養成基盤推進事業

「北海道がん医療を担う医療人養成プログラム
ー地域がん医療の充実と最先端がん研究の推進ー」について

01

北海道医療大学の教育コース

02

01 「北海道がん医療を担う医療人養成プログラム —地域がん医療の充実と最先端がん研究の推進—」について

文部科学省「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」

「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」は、複数の大学がそれぞれの個性や特色、得意分野を活かしながら相互に連携・補完して教育を活性化し、がん専門医療人養成のための拠点を構築することを目的として、文部科学省が大学改革推進等補助金(大学改革推進経費)対象事業として実施するもので、高度ながん医療、がん研究等を実践できる優れたがん専門医療人を

育成し、わが国のがん医療の向上の推進を図るものです。

本事業の前身である旧「がんプロフェッショナル養成プラン」から引き続き、本学と札幌医科大学、北海道大学、旭川医科大学の4大学の共同による「北海道がん医療を担う医療人養成プログラム—地域がん医療の充実と最先端がん研究の推進—」を申請し、選定されました。

1 目的 広大な医療圏を形成する北海道において、がん専門医療人を養成することは重要な課題であり、前回のがんプロフェッショナル養成プランは大きな成果を上げました。

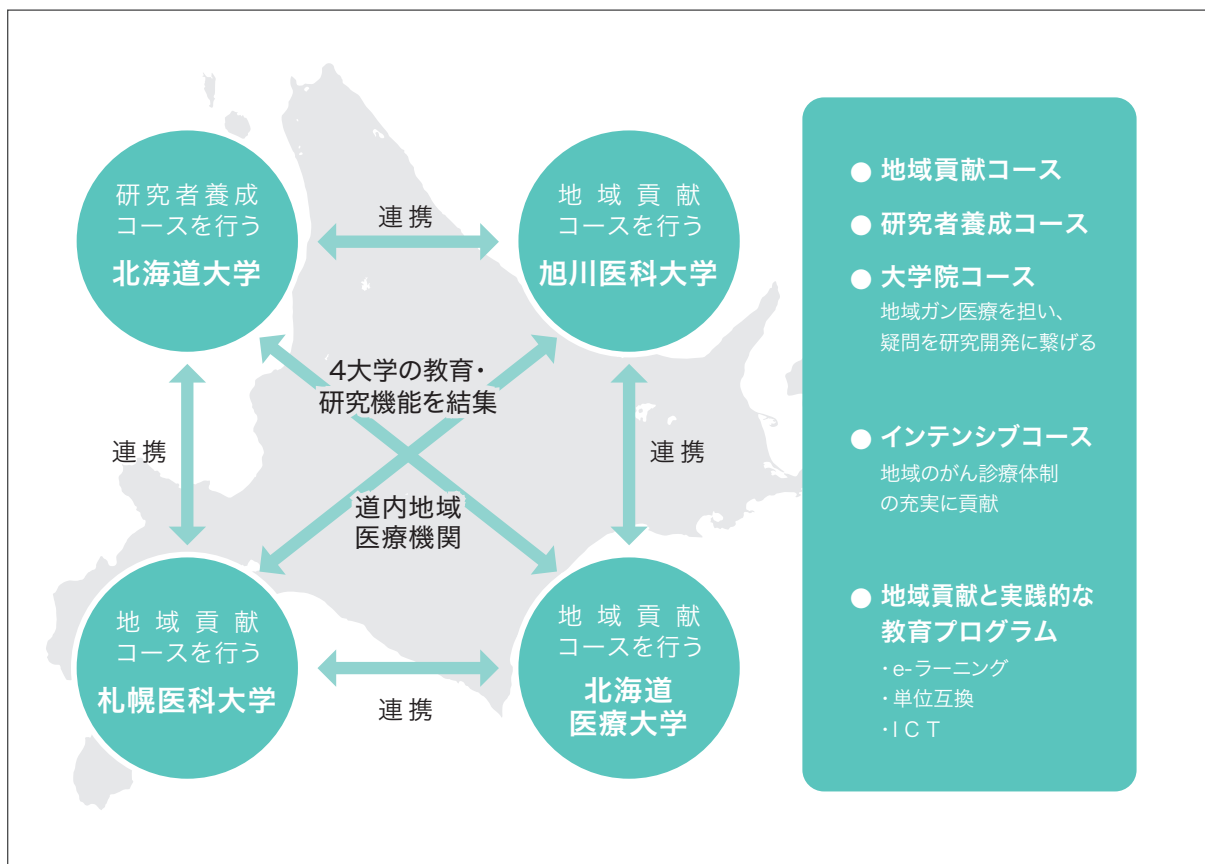
しかし、がん専門医療人の多くは、都市部の基幹病院に集中しており、遠隔地のがん患者の多くは、専門的な治療を受けることが困難な状況にあります。

そこで、今回のプログラムでは、道内4つの医療系大学(札幌医科大学、北海道大学、旭川医科大学、北海道医療大学)が地域の医療機関と連携して、チーム医療研修、カンファレンスなどを行い、遠隔地の医療機関に従事するがん専門医療人に対して、高度ながん専門教育を受けられるようにし、地域のがん専門医療人の養成とがん医療人レベルの向上を図るものです。

2 概要 本プログラムは、北海道内の4つの医療系大学が道内地域医療機関と連携して、単位互換による講義、全国レベルのe-ラーニングクラウドの活用、インターネット等の情報通信技術(以下ICT)によるカンファレンス、チーム医療研修などを行って、遠隔医療機関で研修する医師やがん診療医療人に地域医療に従事しながら高度の専門教育を受けられるようにし、地域のがん専門医療人の養成とがん医療レベルの向上を図り、さらに、臨床を出発点とした最先端のがん研究の基盤作りを推進するものです。

3 組織体制 本プログラムでは、道内4医療系大学のプランに関係する研究科長、コーディネータ、各コース担当責任者等からなる「がんプロフェッショナル養成基盤推進ボード」(以下「推進ボード」という。)を設置しています。推進ボードでは、プラン全体の周知のほか、地域の医療機関との調整、インテンシブコースの企画・運営管理を行います。

また、プランの取組について、その進捗を適切に評価するとともに、運営に関する意見聴取を行う組織として、学長等をはじめ、北海道、職能団体、北海道がんセンター等からなる「評価委員会」を設置しています。評価委員会は、プランの内容の改善や質の向上等を審議し、推進ボードに対して意見を具申します。推進ボードはこの意見を踏まえて、コース内容、運営方法等の点検を図り、より実質的な成果が得られるよう改善するとともに、これらの改善点を公表します。



02 北海道医療大学の教育コース

がん看護コース (緩和ケアリソースナース 養成プログラム)

①教育の目的

がん患者・家族が住み慣れた地域で安心して療養できるよう、ケアとキュアを統合した緩和ケアサービスが提供できるとともに、緩和ケアサービスを効果的にマネジメントし、地域において緩和ケアに携わる保健医療職などを支援するリソースナースとして活躍できる人材を養成する。

②教育内容の特色

- ケアとキュアを統合した高度な看護実践力養成のために、臨床判断力と実践力を強化したカリキュラムの展開
- 地域における緩和ケアサービスのマネジメント力、およびリソースナースとしての能力開発・実践力養成のため他職種参加のもとでの課題設定による演習や実習
- 学外のがん看護に携わる看護師も参加した事例検討と講義を組み合わせた学習会の開催

③養成(受入) 予定人数

3名(各年度)

地域がん医療 薬剤師コース (インテンシブコース)

①教育の目的

先進的がん化学療法や患者ケアに関わる高度な専門知識と臨床能力を持ち、他の薬剤師に対し指導的役割を担うとともに、地域におけるがん医療の推進について、他の医療スタッフと協働して実践することのできるリーダー的薬剤師を養成する。

②教育内容の特色

- 北海道内のがん拠点病院等の薬剤師や職能団体等との連携により、がん医療におけるレジメン管理など具体的事例および課題に関するセミナー、ワークショップにより、広く情報の共有を図る実践的なプログラムの展開
- がんターミナルケアなど、今後増大する地域の在宅ケアにかかわるニーズに対応するため、これまで対象となることが少なかった保険薬局薬剤師を対象とした地域ニーズに即したプログラムを展開

③養成(受入) 予定人数

30名(各回)

【4大学連携プログラム】 地域がん 医療人コース (インテンシブコース)

①教育の目的

がん診療における最新の知識を習得することで、地域におけるがん患者・家族に対して適切な疾患・治療情報を提供できるとともに、がん診療基幹病院と連携をとりながら、地域の医療レベルや患者・家族の状況に応じたがん診療の提供や療養支援ができる人材を養成する。また、多職種が連携したカンサーボードの重要性、希少疾患のコンサルテーションの重要性を理解し、地域がん診療ができるチーム連携能力の高いがん専門医療人を育成する。

②教育内容の特色

- 北海道の広い地域性を考慮し、4大学が協力して、地域医療機関に出向きカンサーボードへの参加やセミナーを行うことによる、地域におけるチーム医療の充実やがん医療人の生涯教育の支援
- 地域がん診療拠点病院をはじめとする地域医療機関と大学との間に既に設置しているICTを積極的に活用して、最新のがん医療情報の習得が困難な地域の医療人を対象とした、がんに関するセミナー、公開カンファレンス、カンサーボードや地域医療機関での研修会の開催を通じた生涯教育による、地域のがん診療レベルの向上

③養成(受入) 予定人数

200名(各年度)

平成24年度 北海道医療大学

がん看護コース

事業報告

緩和ケアリソースナース養成プログラム 01

特別セミナー 02

01 緩和ケアリソースナース養成プログラム

コース責任者 平 典子

がんプロフェッショナル養成プランは、「北海道がん医療を担う医療人養成プログラム—地域のニーズに合ったがん医療と先端研究の推進」という新たな内容で平成24年度からスタートしました。

本学のがん看護コースでは、地域がん医療を担う人材養成の事業として「緩和ケアリソースナース養成プログラム」を企画しました。これは、地域において緩和ケアに携わる保健医療職を支援するリソースナースとして活躍できる人材養成を目的としたものです。具体的には、大学院における高度な緩和ケアサービスを提供できる専門看護師の養成、道内における緩和ケアサービスを担う関連職種へのスーパービジョン体制の構築をめざしていきたいと考えています。

今年度、3名の大学院生を迎え、また研修会や事例検討会を実施しました。以下、がん看護専門看護師養成に関する現況、北海道医療大学におけるがん看護専門看護師の教育課程、平成24年度養成プログラム事業について報告します。

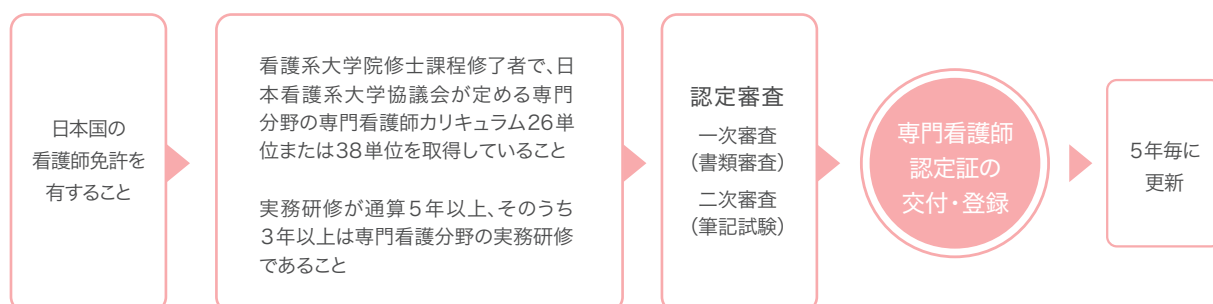
がん看護専門看護師の養成に関する現況

専門看護師 Certified Nurse Specialists (CNS) とは、日本看護協会専門看護師認定試験に合格し、複雑な健康問題を抱えた個人とその家族および集団に対して、質の高い知識と技術をもって卓越した看護実践能力を発揮する看護師を指します。専門看護師が担う役割には、実践、相談、教育、調整、研究、倫理的調整の6つがあげられます。

2012年12月現在、日本看護協会が認定している専門分野は、がん看護、精神看護、地域看護、老人看護、小児看護、母性看護、慢性疾患看護、急性・重症患者看護、感染症看護、家族支援、在宅看護の11分野です。このなかで、がん看護専門看護師の認定数は、1,048人中435人、道内でのがん看護専門看護師数は16人となっています。

専門看護師の認定を受けるためには、下記の教育および認定システムに則り、必要な条件を満たさなければなりません。また、認定期間は5年で、認定後は5年ごとに更新が必要となります。

ここ数年検討されてきたいわゆるナースプラクティショナー (NP)、特定看護師 (仮称) については、今年度中に法制化にむけた結論を出すところまで検討が進んでいます。またこの動向を踏まえ、専門看護師の養成カリキュラムでは38単位への移行が進められており、本学でも具体的な検討を始めるところです。



北海道医療大学におけるがん看護専門看護師の教育課程

専門看護師の養成は、日本看護系大学協議会により、専門看護師養成の教育プログラムを整備していると認可された教育機関によって行われています。

本学では、平成19年にがん看護コースが開設され、平成21年「がん看護専門看護師教育課程」として認定されました。カリキュラムは、サブスペシャリティを「緩和ケア」におい

て表のように構成されています(表参照)。表中の「認定単位」とは、日本看護系大学協議会によって専門看護師教育課程の単位として認められた単位数を意味し、共通科目、専攻分野専門科目および実習科目合わせて26単位として設定しています。

■がん看護専門看護師コース配当科目一覧

	配当科目名	本学単位	認定単位	履修要件
共通科目	看護教育特論	2	2	左記科目から8単位以上を履修・修得する
	看護管理特論	2	2	
	看護理論特論	2	2	
	コンサルテーション論	2	2	
	看護倫理特論	2	2	
	研究方法論Ⅰ(研究計画法)	2	いずれか 2	
	研究方法論Ⅱ(質的研究法)	2		
	研究方法論Ⅲ(量的研究法)	2		
	研究方法論Ⅳ(公衆衛生調査法)	2		
配当単位数計			14	8単位以上
専門科目 実習科目	がん看護学特論	2	2	専攻分野および実習科目については、配当科目をすべて履修・修得する
	がん看護学演習	4	4	
	腫瘍学特論	2	2	
	病態治療論	2	1	
	家族ケア論	2	1	
	地域在宅ケア論Ⅲ(緩和ケア)	1	1	
	地域在宅ケア論Ⅳ(薬理学)	1	1	
	臨地実習Ⅰ	2	2	
	臨地実習Ⅱ	4	4	
	配当単位数計			

01 緩和ケアリソースナース養成プログラム

平成24年度事業について

今年度の主な事業は、がん看護専門看護師の養成、研修会、北海道CNSの会共催による事例検討会および大学院受験支援としてのセミナーの実施、4大学共同事業となる地域がんセンターボード・特別セミナーへの参画でした。

専門看護師養成コースでは、今年度、3人の大学院生が入学しました。この1年間は、各人、CNSコースの共通科目、がん看護学に関する専門科目および臨地実習での学習に取り組んでいます。臨地実習Iでは、学生の臨床体験や今後の活動に対するビジョンを考慮し、北海道大学病院 石岡明子さん、北里大学病院 近藤まゆみさんにご指導いただきました。学生たちにとっては、看護専門看護師の活動に参画しながらCNSとしての高度な看護実践について探求することは、可視的な活動内容から高度実践に結びつく判断力や予測性を理解することになり、それこそかなり高度な学習となります。日々の実習体験を記述し、じっくり考えてもなお、「包括的とは?」「予測性はどこから?」など、整理がままならない状況になっていたように感じます。しかし、今回の学びは、必ずや2年次の実習体験や学習に発展していくものと期待しているところです。

研修会としては、専門看護師をめざしている方だけではなく、認定看護師やジェネラリスト、看護管理者を含めこれまでより参加対象を拡大して企画しました。第1回目は、北里大学病院 がん看護専門看護師 近藤まゆみさんを講師に迎え、「組織や地域に活用されるリソースナースとは～ジェネラリストとスペシャリストのコラボレーション」と題し、研修会を開催しました。参加者は、本学院生以外に道内のがん看護専門看護師、専門看護師を目指している方など22人でした。講演では、北里大学病院で活動されているCNSが組織で活用されるまでの葛藤や経過をお話いただき、参加者それぞれが今の自分の状況を振り返りながら、活用されるための第1歩としてまずはいかに自分を知ってもらうかを考え、小さくとも何らかの成果を示していくことが重要だと感じたようでした。

第2回目は、淀川キリスト教病院 がん看護専門看護師 田村恵子さんを講師に、「倫理的感受性を育み、組織文化

にするには」について研修会を開催し、32人の参加を得ました。講演では、なぜ倫理的感受性を育もうと考えたのか、そのためにこの10年でどのような活動を推進してきたのかご紹介いただきました。印象的だったことは、「何かもやもやするといった感触では倫理的問題をはらんでいることが多い」という問題意識の持ち方、そして「10年で組織は変化する」という結びでした。これらの表現に、専門看護師としての意図的な活動をどのように創造するのか、また、組織変革にかける時間とそのため段階的な活動をどのように進めていくと良いのかなど理解することができました。昨年度のご講演で、「自分の意図した方向で成果を出す」ことが重要だと話されていたことが想起された講演でした。

第3回目では、「専門性の高い看護師に対して付与された診療報酬を現場で活かすために」というテーマで、YMCA看護ステーション所長 がん看護専門看護師 濱本千春さん、茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター看護局長 がん看護専門看護師 角田直枝さん、勤医協中央病院 緩和ケア認定看護師 加藤真由美さんをお迎えし、それぞれの立場でご講演および情報提供をしていただきました。講演では、診療報酬改定の仕組みやその内容、地域で活用されるための活動が紹介されましたが、3人の「熱い実践」に触れながら、参加者一同、患者や家族から「報酬を支払ってでも利用したい」と感じてもらうためには・・・と活動のあり方が考えさせられたように思います。

学生支援事業としては、北海道CNSの会の共催のもと、年4回の事例検討会を開催しました。このうち2回は、近藤まゆみさんと田村恵子さんにスーパーバイズしていただきましたが、これはまさにCNSコースの大学院生や道内のCNSがリソースナースを活用している場面でした。また、大学院受験のサポート事業として、本学の大学院説明会の共催を得て、受験希望者と本学院生との交流会を開催し、6人の参加を得ました。今回は、日本赤十字北海道看護大学がんCNSコースの院生も参加くださり、その後も交流が続いている点も成果の一つとなりました。さらに、大学共同事業となる地域がんセンターボード・特別セミナーでは、本学修了生の専門看

看護師 石岡明子さんに参加いただきました。参加者との交流から、専門看護師を派遣するという本事業は大きな成果をあげていると実感しております。

次年度は、今年度と同様の事業を進めながら、全国がんブ
ロフェッショナル養成事業 e-learningクラウドへの参画も
推進したいと考えています。

開催日程

■緩和ケアリソースナース養成プログラム

	テーマ / 講師 / 事例提供者	受講者数
第1回 2012.8.25(土) 13:00～15:30	組織や地域に活用されるリソースナースとは ～ジェネラリストとスペシャリストのコラボレーション～ 講師 近藤 まゆみ 氏 (北里大学病院 がん看護専門看護師)	22名
第2回 2012.9.15(土) 13:00～18:00	CNSが行う倫理調整とは ◎倫理的感受性を育み組織文化にするには 講師 田村 恵子 氏 (淀川キリスト教病院 がん看護専門看護師) ◎意思決定が困難ながん終末期患者へのセデーションを希望した家族との関わり 事例提供者 遠藤 佳子 氏 (東札幌病院 がん看護専門看護師) コメンテーター 田村 恵子 氏 (淀川キリスト教病院 がん看護専門看護師)	32名
第3回 2013.1.19(土) 13:00～17:00	専門性の高い看護師に対して付与された 診療報酬を現場で活かすために ◎診療報酬・介護報酬同時改訂で示された仕組みとその実際 講師 濱本 千春 氏 (YMCA訪問看護ステーション所長 がん看護専門看護師) ◎病院から地域への発信 ～地域に活用される専門性の高いナースになるために～ 講師 角田 直枝 氏 (茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター看護局長 がん看護専門看護師) ◎地域からリソースナースとして活用されるために～その体制作りの取り組みの紹介～ 事例提供者 加藤 真由美 氏 (勤医協中央病院 緩和ケア認定看護師) コメンテーター 濱本 千春 氏 (YMCA訪問看護ステーション所長 がん看護専門看護師) 角田 直枝 氏 (茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター看護局長 がん看護専門看護師)	45名

■学生支援事業(OCNS事例検討会)

	テーマ / 講師 / 事例提供者	受講者数
第1回 2012.8.25(土) 16:30～19:30	OCNSの役割開発 事例提供者 半澤 江衣 氏 (北海道大学病院 がん看護専門看護師) コメンテーター 近藤 まゆみ 氏 (北里大学病院 がん看護専門看護師)	15名
第2回 2012.11.17(土) 16:30～19:00	OCNSのマネジメント力～現状分析～ 事例提供者 山田 琴絵 氏 (KKR札幌医療センター がん看護専門看護師)	14名
第3回 2013.1.26(土) 16:30～19:00	OCNSのマネジメント力～リーダーシップ～ 事例提供者 内海 明美 氏 (札幌厚生病院 がん看護専門看護師)	13名

01 緩和ケアリソースナース養成プログラム

がん患者・家族から活用されるがんの高度看護実践者の育成

コース担当者 川村 三希子

平成24年度から、第2期がんプロフェッショナル養成基盤推進プランが始動致しました。

第1期のがんプロフェッショナル養成プランでは、北海道のがんの高度看護実践者育成の草創期の5年間でした。当初、道内では、1名だったがん看護専門看護師は、この5年間で16名となり、がん看護実践のリーダーとして実践現場を牽引しようと日々努力しております。しかし、未だその力を十分に発揮できているとは言えず、組織の中での立ち位置や役割を模索している場合も多いです。さらに、医療の受け手であるがん患者さんご家族に、高度看護実践者の存在が理解されているとも言い難いと思います。そこで、第二期がんプロフェッショナル養成プランでは、がん患者・家族の資源(リソース)として、高度看護実践者が活用されること、そして地域の医療介護職からも実践者として認められ活用されることを目指し、「緩和ケアリソースナース育成プログラム」としてプログラムを開催することとしました。がん患者・家族が住み慣れた地域で安心して療養できるよう、ケアとキュアを統合した緩和ケアサービスが提供できるとともに、緩和ケアサービスを効果的にマネジメントし、地域において緩和ケアに携わる保健医療職などを支援するリソースナースとして活躍できる人材を養成することを目的として新たな5年をスタートさせました。以下に、今年度企画した研修会報告を中心に、今後の課題を報告させていただきます。

平成24年度は、CNSの役割や活動を広く理解してもらうために、ジェネラリスト、認定看護師、看護管理者にも対象を広げ研修を企画しました。第1回目は、「組織や地域に活用されるリソースナースとは～ジェネラリストとスペシャリストのコラボレーション」をテーマに、講師の近藤まゆみ先生の活動史を紹介いただきディスカッションしました。自分がどうしたいかではなく、組織にとって自分は何を求められているのか、自分は何が出来て何が出来ないのかといった専門職としての「自己覚知」のためのトレーニングを教育の中で取り入れて行くことが課題だと感じました。第2回目は、「CNSが行う倫理調整と

は」をテーマに開催しました。田村恵子先生の「倫理的感受性を育み、組織文化にするには」の講演では、田村先生の、問題解決に向けたダイナミックなゴールオリエンテッドな思考、一方で現場に根付いた地道できめ細かな戦略的介入は、変革者(チェンジエージェンシー)としての重要な能力であると感じ取ることができました。臨床で起きているリアルな事象から決して目をそらさず、一方で先を見据えたアセスメント、リスクを引き受ける態度、行動力を育てていくことが重要だと感じました。第3回目は、「専門性の高い看護師に対して付与された診療報酬を現場で活かすために」をテーマで開催しました。この診療報酬は、患者さんご家族が安心して在宅で療養できるために、専門性の高い看護師に対して付与された、いわば先取りのような診療報酬ですが、せっかくのチャンスを我々が十分に活用できていない現状があります。角田先生からは、「地域が活用したいと思わせるスキルがあること」、そして、「地域で活用されたいというマインドがあること」そして、変革者としてチャレンジするためには、不慣れた環境を楽しめるか、日頃接しない人と出会うことを楽しみとできるかが鍵であるというメッセージを頂きました。また、地域へのコンサルテーション活動を紹介してくれた緩和ケア認定看護師の加藤真由美さんからは、「地域のがん医療の発展のために」そしていつ、いかなる場合でも、「患者さんご家族を中心に」という凛とした姿勢を肌で感じ、初心に帰る思いをしました。

「もしあなたががんになったら、自分が今住んでいる地域で、安心して治療を受けられますか?」「苦痛や心配には十分に対処してもらえると思いますか?」この質問に道民の多くがYesと答えられるような社会にすることが、本当のゴールですが、Haste not, Rest not(急がず、休まず)丁寧に育んでいきたいと思えます。

今年度で本学のがんプロフェッショナル養成プランの任を離れることになりましたが、病む人が最後まで尊厳をもちながら暮らしていけるよう本事業のますますのご発展を祈念しております。

■緩和ケアリソースナース養成プログラム

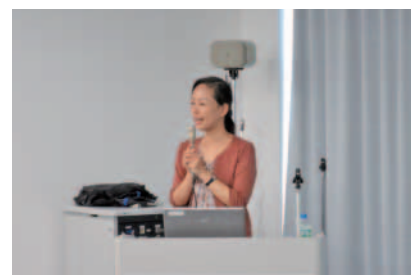
第1回

組織や地域に活用されるリソースナースとは
～ジェネラリストとスペシャリストのコラボレーション～

がん看護専門看護師養成コース第1回プログラムでは、平成24年8月25日(土)、北里大学病院がん看護専門看護師 近藤まゆみさんを講師にお迎えし、「組織や地域に活用されるリソースナースとは～ジェネラリストとスペシャリストのコラボレーション」について研修会を開催しました。参加者は、CNS、CNSコースの大学院生と修了生、CNS等の教育関係者など22人でした。

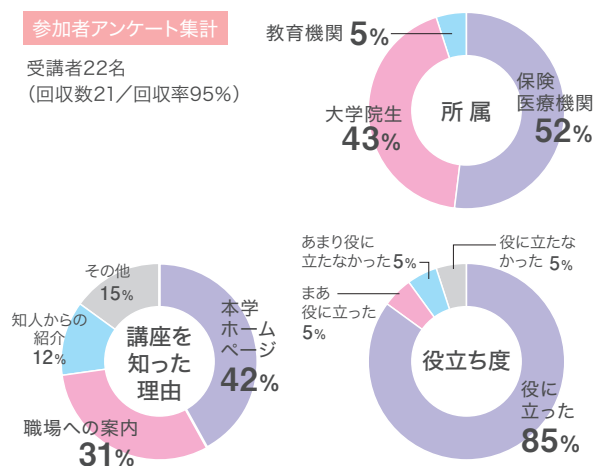
道内では、年々誕生しているOCNSがそれぞれ所属する施設で役割開発しながら、活動の幅を広げていくことが課題になっていると思います。そこで今回、近藤まゆみさんには、リソースナースとして「活用される」とはどういうことなのか、そのため活動開始の初期には何をしたらよいのかに焦点をあてご講演いただきました。その中で、リソースナースとしては、自らが「サポート源として成長する」、一つひとつの困難事例に「サポート内容を示す」ことが重要だと話されていました。また、組織にどのように参入し機能していくかについては、4人のCNSの例から具体的なヒントが得られ、ジェネラリストとのコラボレーションでは、事例を通して経過とともに「ケアが紡ぎだされる」様が理解できました。さらに、北里大学病院におけるピアスーパービジョン体制として、コンサルテーションとコーディネーションの2つのCを意味するC2会活動もご紹介いただきました。

最も印象に残った内容は、ジェネラリストナースとの協働では、自分が「ジェネラリストナースとしての役割を果たす」という下りでした。当然と言えば当然ですが、「CNSとして」と肩に力が入りすぎると忘れがちになる基本的な姿勢ではないかと思えます。近藤まゆみさんからは、参加者の成長が感じられるとコメントをいただきましたが、道内のOCNS活動の成長期となる今こそ、ジェネラリストナースと足並みをそろえ、一緒に看護実践の成果を出す姿勢を思い出さなければならないと感じた講演会となりました。



参加者アンケート集計

受講者22名
(回収数21/回収率95%)



[ご意見]

- CNSとしての活動の在り方がよくわかりました。
- 実践や実例に基づいた内容でとても役に立ちました。テーマがとてもよかったです。
- 自分自身が、今後役割開発をしていくにあたり、実際のCNSの方々の悩みや組織へのアプローチ方法がとても参考になりました。

01 緩和ケアリソースナース養成プログラム

■緩和ケアリソースナース養成プログラム

第2回

CNSが行う倫理調整とは

- ◎倫理的感受性を育み組織文化にするには
- ◎意思決定が困難ながん終末期患者へのセデーションを希望した家族との関わり

がん看護コメディカル研修 緩和ケアリソースナース養成プログラム研修会 第2回プログラムは、平成24年9月15日(土)、「CNSが行う倫理調整とは」をテーマに、第I部の講演と第II部の事例検討の二部構成で開催しました。参加者は、CNS、CNSコースの大学院生と修了生、CNS等の教育関係者など32人でした。第I部の講演は、淀川キリスト教病院の田村恵子先生をお迎えし「倫理的感受性を育み、組織文化にするには」と題して、田村恵子先生が臨床で倫理的感受性を「育み」、それを「組織文化」にまで仕立てていくために、約10年間どのように取り組んできたのかを教えてくださいました。「看護を考える」という名称の勉強会から開始し、「臨床倫理検討会」、さらに「哲学カフェ」と発展させていくプロセスを意図と評価に焦点をあて丁寧に紐解きご説明頂きました。田村先生の問題解決に向けたダイナミックなゴールオリエンテッドな思考、一方で現場に根付いた地道できめ細かな戦略的介入は、変革者(チェンジエージェンシー)としての重要な能力であると感じ取ることができました。

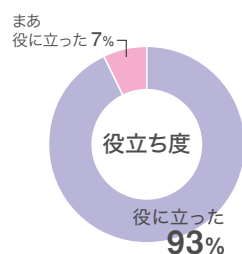
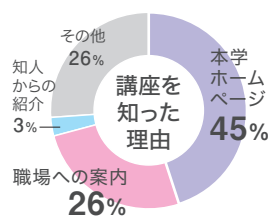
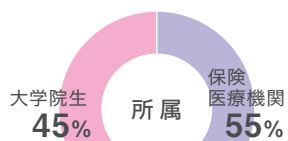
第II部「意思決定が困難ながん終末期患者へのセデーションを希望した家族との関わり」では、がん看護専門看

護師の遠藤佳子さんが臨床で遭遇した事例を紹介しながら、グループに分かれてディスカッションを行いました。意志決定能力の低い患者さんに遭遇した際、CNSはどのようなことを予測しチームにどのように意図的に関わるのか、セデーションの妥当性と相応性をガイドラインに沿ってどのように検討したのか、事例から発展させて、臨床での倫理的問題にどのように対応しているかなど幅広く議論されました。「部署、院内の倫理的感受性が高まり、根付くためには、長い年月をかけて、コツコツ取り組むことが必要と改めて実感した。」「自分のこれからの目標を考えていく上で、整理できた。カンファレンスを開くこと一つにしても、CNSとしての意図をもって関わっていくことが大切で、その難しさもある事を感じた。自分であれば、どのような動きが出来るのか、考えてみたい。」などの参加者からのご意見を頂きました。田村さんは倫理調整とは、CNSが実践してしまうのではなく、スタッフと共に考えて行動するといった、教育指導的な要素を含む役割であることを強調されていました。

第2回も田村恵子先生、北海道CNSの会のご協力を得て、有意義で活発な意見交換があり、北海道のがん看護の底力と将来への期待を感じました。

参加者アンケート集計

受講者32名
(回収数29/回収率91%)



[ご意見]

- これからCNSを目指すにあたって、勉強になる内容でした。
- 事例の場面から、CNSの役割を考えることができました。
- 倫理問題を改めて考える機会になりました。
- 倫理的な問題は日々悩む事であり、研修会はためになりました。
- 倫理的感受性を高めるためのCNSとしての組織での活動がみえました。
- 田村先生のこれまでの倫理に関する取り組みのプロセスについて、詳しく聞くことが出来て、とても役に立つ研修だと思いました。事例検討からも学びがありました。

01 緩和ケアリソースナース養成プログラム

■緩和ケアリソースナース養成プログラム

第3回

専門性の高い看護師に対して付与された診療報酬を現場で活かすために

- ◎診療報酬・介護報酬同時改訂で示された仕組みとその実際
- ◎病院から地域への発信 ～地域に活用される専門性の高いナースになるために～
- ◎地域からリソースナースとして活用されるために～その体制作りの取り組みの紹介～

がん看護コメディカル研修 緩和ケアリソースナース養成プログラム研修会 第3回プログラムは、平成25年1月19日(土)、「専門性の高い看護師に対して付与された診療報酬を現場で活かすために」をテーマで開催しました。参加者は、CNS、CNSコースの大学院生と修了生、訪問看護師など45名でした。講演はお二人のがん看護CNSの先生から診療報酬の改訂ポイント、地域に発信していける専門性の高い看護についてお話いただきました。はじめに、濱本千春先生(YMCA訪問看護ステーション所長：がん看護専門看護師)から、「診療報酬・介護報酬同時改訂で示された仕組みと実際」をテーマに、平成24年度から改訂になった診療報酬の改訂の意図、改訂によって現場で生じている現象、そして、我々の目指す方向性について詳しくお話いただきました。平成24年度の改訂のポイントは、2025年の医療の姿を見据えて、チーム医療の促進、医療と介護の役割分担の明確化と地域連携体制の強化、在宅医療の充実、特に看取りに至るまでの医療の充実などがあげられています。現場で生じているニーズを先取りした改訂であると感じるとともに、まだ目先の問題に目を奪われて動きがちな自分たちを振り返ることができました。次に、角田直枝先生(茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター看護局長：がん看護専門看護師)からは、「病院から地域への発信：地域に活用される専門性の高いナースに

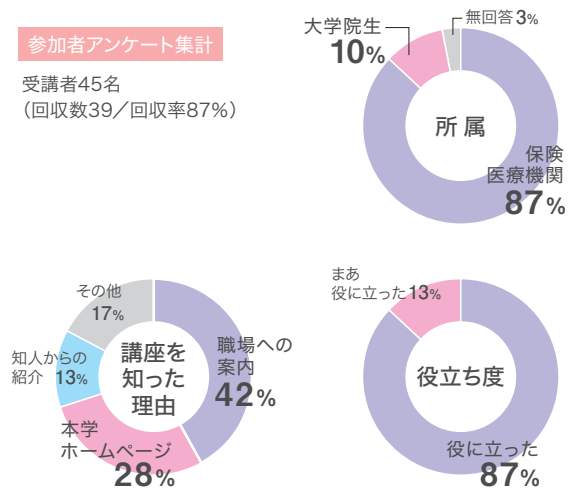
なるために」をテーマにご講演いただきました。角田先生は、活用されるリソースナースになるためには、「地域が活用したいと思わせるスキルがあること」、そして、「地域で活用されたいというマインドがあること」の2点について、ユーモアを交えてお話くださいました。そして、変革者としてチャレンジするためには、不慣れな環境を楽しめるか、日頃接しない人と出会うことを楽しみとできるかが鍵であると力強いメッセージをくださいました。

最後に、話題提供として、加藤真由美さん(勤医協中央病院 緩和ケア認定看護師)からは、「地域からリソースナースとして活用されるために～その体制作りの取り組みの紹介～」として、取り組みのプロセスを紹介いただきました。加藤さんは診療報酬が改訂になった時点で、地域からのニーズがおきた際に迅速に対応できるよう様々な見通しを予測し、予め院内のメンバー集め、メンバー内で目指すべくベクトルを合意し準備を整えていったことを紹介いただきました。常に利用者中心に丁寧に取り組んでいる状況が伝わってきました。

参加者からは、「何を動かすか、発信する時に大切に考えること、信念の大切さなどが理解できました。」「CNSが地域でどのように活動できるのか、病院から地域へどのように出ていくのか、イメージできました。現状がとても良くわかりました。」などの感想をいただき、有意義な研修会となりました。

参加者アンケート集計

受講者45名
(回収数39/回収率87%)



[ご意見]

- 身近な病院と外来の連携も聞けて、とてもよかったです。
- 診療報酬改定に伴う実際が聞けて、自分の今後の課題が明確になりました。楽しく聞けました。
- 自分の出来ることを見つめなおして、地域の為に頑張る、というモチベーションを上げることができました。
- 訪問看護・在宅への橋渡しを考えていたため、OCNSで訪問されている先生のお話を聞けて、大変また考えさせられました。



01 緩和ケアリソースナース養成プログラム

■学生支援事業(OCNS事例検討会)

第1回 OCNSの役割開発

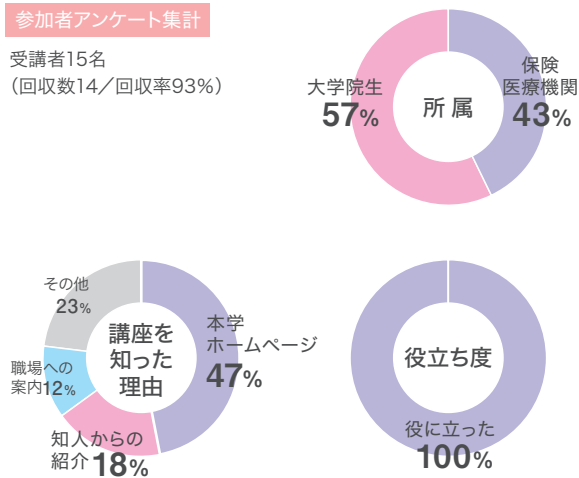
北海道専門看護師の会(がん看護領域)と緩和ケアリソースナース養成プログラム学生支援事業の共催による第1回研修会を、平成24年8月25日(土)に開催しました。今回は、北里大学病院の近藤まゆみさんをお招きして、CNSの役割開発をテーマに、北海道大学病院の半澤江衣さんに自身の活動についてプレゼンテーションしていただき、皆でディスカッションしていくことで自分自身の活動を振り返りました。

参加者からは、「CNS候補生としての、今後の動き方が

みえてきた。精神的支援の場になった。」「CNS、CNの方の現場の状況や困りごとがわかり、共有できてよかった。」「リソースナースとして、どのように現場の力を上げていくか、自分のやりたいことと、自分のやれることを考えながらアプローチしていくことなどを学んだ。」などの感想がありました。北海道のCNSは増えてきましたがまだその数は少なく、同じ立場のものと語り合うことが難しい中、今回の研修で、お互いの状況を語ることで自己を客観視でき、課題を見出すことができました。

参加者アンケート集計

受講者15名
(回収数14/回収率93%)



[ご意見]

- 今の立場、CNS候補生としての活動、今後の動き方がみえてきました。本当に来てよかったです。視点だけでなく、精神的支援の場でした。
- 現CNSの方、先生の、ケースマネジメント、事例などのお話を聞けて、参考になりました。

■ 学生支援事業 (OCNS 事例検討会)

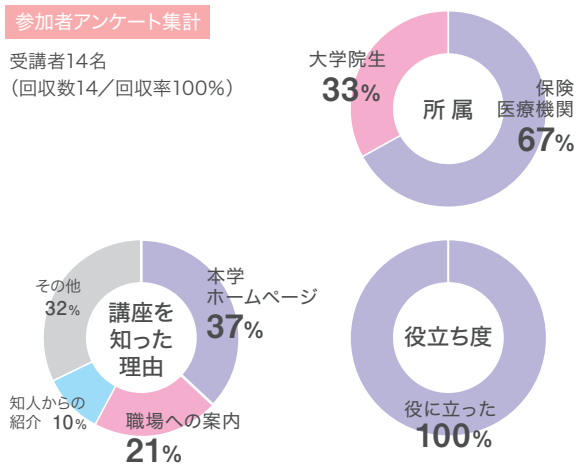
第 2 回 OCNS のマネジメント力～現状分析～

北海道専門看護師の会(がん看護領域)と緩和ケアリソースナース養成プログラム学生支援事業の共催による第2回研修会を、平成24年11月17日(土)に開催しました。今回のテーマは、OCNSのマネジメント力～現状分析～であり、参加者はCNS、CNSコースの大学院生と修了生合わせて14名でした。事例提供はKKR札幌医療センターのがん看護専門看護師の山田琴絵さんで、組織のアセスメントをSWOT・クロス分析にて行ない、実際に活動にどのように活かしているのかの報告がありました。

参加者からは、「組織のなかでCNSとしてどのように活動していくと良いのかがわかった」「部署のなかでの自分の立場に悩んでいたのでもまずは部署の分析をして課題を明らかにしたい」「マネジメントを理解することの重要性を再認識した」などの感想がみられました。CNS(候補生)として組織の中で活動していくためには、所属する組織の課題を明らかにして具体的に取り組むことが必要だということを再確認しました。そのためには、マネジメント力を高めることが重要であり、今後も継続して学習していきたいと思いました。

参加者アンケート集計

受講者14名
(回収数14/回収率100%)



[ご意見]

- 組織の中でCNSとしてどう活動していくのか、考える機会となりました。
- 演題提供された方の分析をみて、どのような視点で分析していくとよいのか、ということが参考になりました。
- 病棟での自分の立場が明確に出来ず悩んでいましたが、スタッフナースとしても病棟を分析して、自分の部署の理解を深めたいと思いました。



01 緩和ケアリソースナース養成プログラム

■ 学生支援事業 (OCNS事例検討会)

第3回 OCNSのマネジメント力～リーダーシップ～

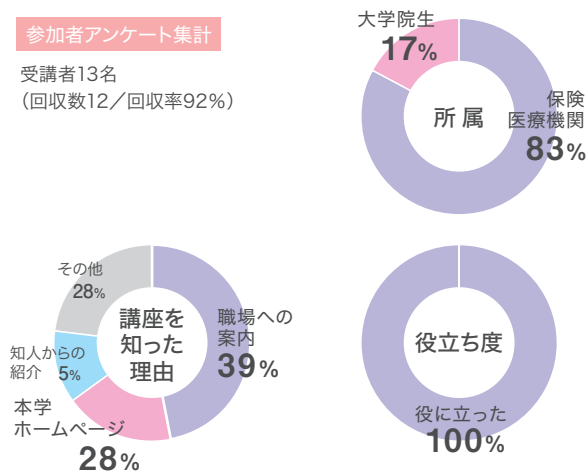
北海道専門看護師の会(がん看護領域)と緩和ケアリソースナース養成プログラム学生支援事業の共催による第3回研修会を、平成25年1月26日(土)「OCNSのマネジメント力～リーダーシップ～」というテーマで開催しました。参加者はCNS、CNSコースの大学院生と修了生合わせて13名でした。事例提供者の札幌厚生病院がん看護専門看護師である内海明美さんは、外的・内的に大きな変化があった環境の中で、院内を横断的に実践活動する立場から、組織内の疼痛マネジメント能力向上を目指し、意識的にリーダー

シップを発揮したプロセスを報告してくださいました。

参加者からは、「自分の関わりが、何を意図して行っているのかを考えるきっかけになった」「リーダーシップとマネジメントの視点を振り返り、知識を整理する機会になった」「マネジメントとリーダーシップを意識して動くことの大切さを学んだ」などの感想がありました。CNSとして組織の中でリーダーシップを発揮していくためには、複雑な環境や組織の向かう目標を知り、組織の中での自分の立場や特性を生かして、周囲に影響を与える活動を継続していくことが重要だと学ぶことが出来ました。

参加者アンケート集計

受講者13名
(回収数12/回収率92%)



[ご意見]

- OCNSのマネジメントについての考え方を、理解することができました。



02 特別セミナー

特別セミナーは、本学独自のがんプロフェッショナル養成基盤推進プラン事業として、専門看護師をめざす人に対する就学支援を目的に設定されたセミナーです。

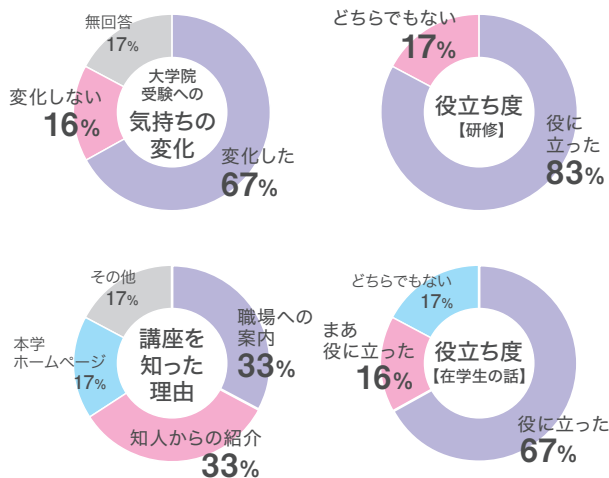
今年度は、本学看護福祉学研究所の共催のもと、平成24年7月4日、本学札幌サテライトキャンパスにおいて開催されました。前半では、看護福祉学研究所の沿革、教育方針やコース、教育内容と履修に関する説明が実施され、後半、がん看護専門看護師コースの受験者に対する特別セミナーが開催されました。

今回は、5人の参加者に、本学がん看護CNSコースの在籍者4人、日本赤十字北海道看護大学がん看護CNS

コース在籍者1人およびCNSとして活動している修了生1人が加わり、受験の準備、就学後の学業や学生生活について話し合われました。参加者からは、CNSコースへの受験準備として、学習内容、2年もしくは3年での学業の進行状況、社会人としての学生生活の状況など種々の質問が出され、活発な交流がもたれました。

なんと言っても、今年度のセミナーでは、道内の他大学においてOCNSを目指している方の参加を得たことが大きな収穫となりました。このような形で大学間の交流が深まることも、がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの成果ではないかと考えています。

参加者アンケート集計 受講者6名(回収数6/回収率100%)



平成24年度 北海道医療大学

地域がん医療薬剤師コース (インテンシブ)

事業報告

地域がん医療薬剤師養成基礎講座

地域がん医療薬剤師養成基礎講座

本講座では、「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」事業の一環として、がん専門薬剤師を目指す薬剤師(社会人及び大学院生)を対象に、講義形式の研修や地域での専門医師、看護師等のインテンシブコースとの共同でチームカンファレンスを開催いたしました。本年度は、9月と11月に研修会を、3月に研究討論会を開催し、修了いたしました。以下に、平成24年度の概略を報告させていただきます。

開催日程			
	テーマ / 講師	会場	受講者数
第1回 2012.9.11(火) 18:30~20:30	がん薬物療法を安全にすすめていくために 講師 中村 勝之氏(札幌医科大学附属病院 薬剤部)	ACU 中研修室 1613	18名
第2回 2012.11.13(火) 18:30~20:30	小児血液腫瘍性疾患治療の現状 講師 小林 良二氏(札幌北楡病院 小児思春期科)	ACU 中研修室 1613	3名
第3回 2013.3.2(土) 13:00~16:30	第2回がん薬物療法研究討論会 座長 上野 英文氏(砂川市立病院薬剤部)ほか 発表者 北海道内13病院の薬剤師	札幌 全日空ホテル	60名

第1回 がん薬物療法を安全にすすめていくために

平成24年9月11日(火) 18:30から文部科学省がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン インテンシブコース「第1回地域がん医療薬剤師養成基礎講座」をACU中研修室で開催いたしました。札幌医科大学附属病院がん専門薬剤師中村勝之先生より「がん薬物療法を安全にすすめていくために」のタイトルでご講演いただきました。本講演では、まずがん薬物療法で薬剤師が何を求められているかについて、レジメン管理・処方監査について自施

設での経験を基に詳しく説明されました。次に服薬指導については、薬剤管理指導と有害事象対策を中心に述べられましたが、特にがん化学療法時の副作用に対する薬剤師の関わりは非常に重要であることについて実例を挙げて述べられました。がん専門薬剤師の役割が今後益々重要になると思われますが、がん専門薬剤師を目指す参加者には大変参考になる内容でした。

[ご意見]

- 適切な治療のために、土台やシステムを整備することの大切さが学べました。
- まだ自分には難しいことも多かったです、わかりやすかったです。
- まだ早いですが、将来的に役立てたいと思います。
- 現場に合わせた工夫を考える必要性を感じました。



第2回

小児血液腫瘍性疾患治療の現状

平成24年11月13日(火) 18:30から文部科学省が
んプロフェッショナル養成基盤推進プラン インテンシブ
コース「第2回地域がん医療薬剤師養成基礎講座」を
ACU中研修室で開催いたしました。札幌北楡病院小児
思春期科部長小林良二先生より「小児血液腫瘍性疾患
治療の現況」のタイトルでご講演いただきました。本講演
では、まず小児がんの頻度、初発入院数の推移、小児白
血病の生存率などについて自施設での経験を基に分かり

易く解説されました。次に小児血液腫瘍性疾患治療の実
際について、レジメンや実例を紹介しながら詳しく述べられ
ました。最後に、小児がん治療の問題点として1.再発、2.
二次性癌、3.成長の問題(身体面、精神面)、4.不妊の
問題、5.脱毛を取り上げました。データが非常に少ない小
児がんの薬物療法については、薬剤師の役割が今後
益々重要になると思われますが、大変参考になる内容で
した。

[ご意見]

- 参加者は少人数でしたが、大変ためになりました。



地域がん医療薬剤師養成基礎講座

第3回 第2回 がん薬物療法研究討論会

【Part 1】 座長/上野 英文(砂川市立病院 薬剤部)・唯野 貢司(北海道医療大学 薬学部)

	発表題目	発表者
1	「がん拠点病院における持参薬複写システムの有用性」	早坂 州生 (恵佑会札幌病院 薬剤部)
2	「当院におけるオピオイド・鎮痛補助薬に関する啓蒙活動について」	日下部 鮎子 (新札幌恵愛会病院 薬剤科)
3	「緩和ケアチーム薬剤師介入によりリチウム中毒の進行を防いだ1症例」	熊井 正貴 (北海道大学病院 薬剤部)
4	「消化器がん化学療法における腎機能低下に対する薬剤師介入の必要性」	山本 明日香 (市立札幌病院 薬剤部)

【Part 2】 座長/本川 聡(市立釧路総合病院 薬局)・小林道也(北海道医療大学 薬学部)

	発表題目	発表者
1	「タキソテールからワンタキソテールへの製剤変更における血管炎の発現について」	桂川 みき (札幌厚生病院 薬剤部)
2	「当院におけるCetuximabとPanitumumabの有害事象の比較と対策」	高橋 健太 (NTT東日本札幌病院 薬剤科)
3	「外来化学療法室における急性有害事象の実態調査」	河合 武尊 (旭川厚生病院 薬剤部)
4	「イリノテカン塩酸塩によるコリン様症状の発現状況」	鈴木 直哉 (北海道消化器科病院 薬剤部)
5	「当院におけるアザシチジンの使用状況と副作用発現の調査」	遠藤 美央 (手稲仁会病院 薬剤部)

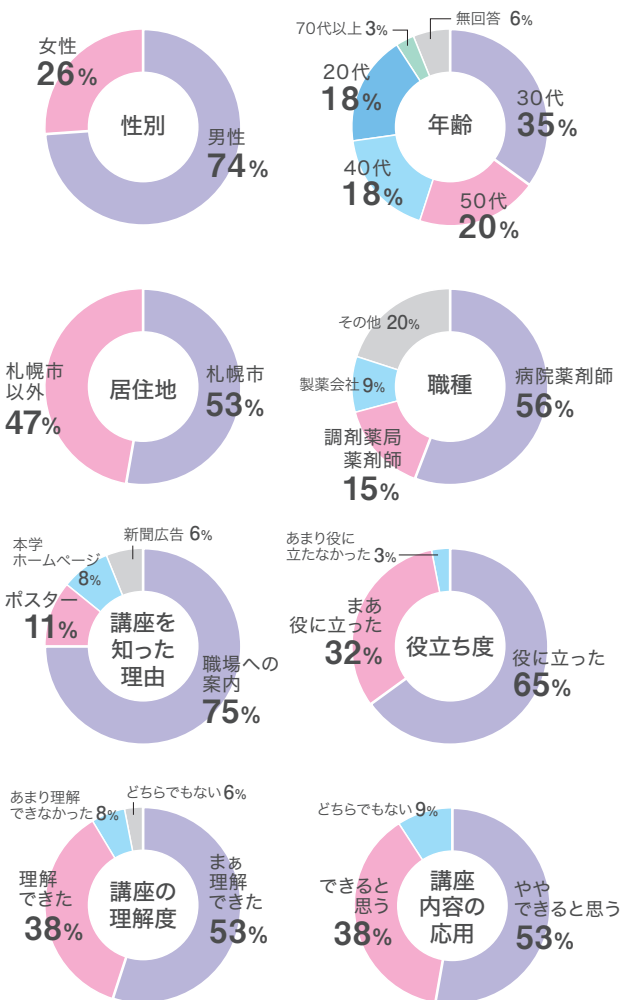
【Part 3】 座長/井藤 達也(札幌社会保険総合病院 薬剤部)・齊藤 浩司(北海道医療大学 薬学部)

	発表題目	発表者
1	「バクリタキセルによる末梢神経障害に対するプレガバリンの有用性についての検討」	藤村 拓也 (天使病院 薬剤部)
2	「シスプラチン投与がハイリスクと考えられる患者におけるマグネシウムの腎保護効果の検討」	村上 貴洋 (帯広厚生病院 薬剤部)
3	「Mohsペーストの使用状況調査～有効性と問題点について～」	瀬戸 恵介 (北海道がんセンター 薬剤科)
4	「分割型のCisplatin多剤併用療法を施行した肺がん患者におけるpalonosetron使用前後の制吐効果の比較」	梅原 健吾 (札幌南三条病院 薬剤部)

平成25年3月2日(土) 13:00から文部科学省がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン インテンシブコース「地域がん医療薬剤師養成基礎講座」と北海道医療大学薬剤師支援センター生涯学習の一環として「がん薬物療法研究討論会」を札幌全日空ホテルで開催いたしました。今回も昨年開催した第1回の企画と同様に、全国学会(日本医療薬学会年会など)で一般演題として発表し

たがんに関する研究内容を紹介していただき、討論などを通して各施設の業務に役立てていただくことを目的といたしました。全道各地の13施設より演題を提供いただき大変内容の充実した討論会となりました。演題を3つのパートに分けて行ないましたが、会場からの質問も多く参加者には大変参考になる内容でした。今後もこのような企画を継続して実施したいと考えております。

参加者アンケート集計 受講者60名(回収数34/回収率57%)



[ご意見]

- 病院薬剤師の方々が、がん化学療法に対して、調製以外にどのように関わっているのかを知ることができました。特に外来に移行した際の問題点を知ることができて、勉強になりました。腎機能の評価に対して見直さなければいけない点を、再認識しました。
- 抗がん剤の特徴、副作用などの情報を、自分の中で整理することができました。また、新しい知識も得られました。
- 発表の演題名がわかっていたので、どういった発表内容なのかを予想して、それぞれの医薬品について予め学習してきました。
- 文献にないような症例、事象に取り組むスタンスを、自分も身に着けたいです。
- 臨床応用するには症例数が少ないため、難しい点もあるのが現状だと思いますが、逆に選択肢が増えたことを思えば、有用な講演でした。
- 臨床における発表が多く、すぐに応用可能と考えます。
- 教育の立場の方と、現場の立場の方のタッグがよかった。



4大学連携プログラム

事業報告

地域がん医療人コース(インテンシブ) 01

市民公開講座 02

01 地域がん医療人コース(インテンシブ)

4大学連携インテンシブプログラム「地域がん医療人コース」は、「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」において、地域がん医療を担うことのできるチーム連携能力の高いがん専門医療人の育成などを目的として、4大学が地域の医療機関と連携して実施するものです。

本年度は4大学が分担し「地域合同がんセンターボード・特別セミナー」として、がん治療方針の決定等にかかわる症例検討・意見交換を行う「地域合同がんセンターボード」と、薬物療法・外科療法・緩和療法などの専門的治療などに関する「特別セミナー」とを合わせて、道内3か所の医療機関で開催しました。

本学は北海道大学との共同による「地域合同がんセンターボード・特別セミナー」を、平成24年12月7日(金)に、室蘭市の製鉄記念室蘭病院において開催し、47名の参加がありました。

まず、前半の「地域合同がんセンターボード」では、北海

道大学大学院医学研究科の秋田弘俊教授を座長として、製鉄記念室蘭病院の医師等が参加した症例検討と意見交換が行われ、実際の症例の検討を通じて多職種間の治療方針決定のプロセスやチーム医療の重要性などを認識する場となっていました。

引き続き行われた「特別セミナー『がんに関する最新治療について』」では、北海道大学大学院医学研究科白土博樹教授による「放射線治療の適応疾患10選」、北海道大学大学院生命科学院 柴山良彦准教授による「がん医療を専門とする薬剤師の現状と今後の展開」、そして本学大学院看護福祉学研究科出身で北海道大学病院の石岡明子がん看護専門看護師による「外来がん化学療法看護の実際」の3つの講演がありました。

いずれの講演もそれぞれの分野における高い専門性と臨床における実践に即した内容であり、参加者にとって新たな知識を獲得する有意義なものとなりました。

02 市民公開講座

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン事業の一つとして4大学合同で開催される市民公開講座が、平成25年2月9日(土)に札幌プリンスホテル国際館パミールにて開催されました。市民公開講座は、がん治療の現状や先端取的組みなどを一般市民の方々に広く知っていただくことを目的とし、先のがんプロフェッショナル養成プランでも毎年開催され多くの一般市民が参加していました。「がんについて学ぶ」と題した今回も186名の参加者があり、会場となった3階「大沼」はほぼ満席という盛況ぶりでした。

黒木由夫教授(札幌医科大学医学研究科長)の開会挨拶の中で本事業の目的や概要が紹介されましたが、参加者の約8割を占めた一般市民の方々にはこの国家的プロジェクトの必要性・重要性を理解していただけたのではと思います。

講演では、札幌医科大学医学部 篠村恭久教授が「消化器がん治療の進歩について」、北海道大学医学研究科

清水伸一特任准教授が「放射線治療のこれまで・これから」、旭川医科大学医学部看護学科 濱田珠美教授が「肺がん治療とうまく付き合う生活を維持する—医師・看護

師と目指す症状マネージメント—」、そして本学薬学研究科長 平藤雅彦教授が「抗がん剤治療による悪心・嘔吐と制吐薬の基礎知識」と題し、がん医療におけるそれぞれの専門的立場から大変興味深い話が紹介されました。市民公開講座で、薬学関係者が講師を担当したのは平藤教授が初めてでしたが、講演の中では悪心・嘔吐が起こる機序とそれを回避するための戦略、そして現在用いられている制吐薬の種類や作用機序などについて解説されました。抗がん剤による悪心・嘔吐はがん患者には耐え難い副作用の一つであり、この講演を通して参加者には制吐薬の意義を理解していただけたことと思います。また、清水特任准教授が講演の中で紹介された分子追跡陽子線治療装置はがん治療の今後に大きな期待を抱かせるものでした。

参加者のアンケート(回収率85%)でも、講演内容について「理解できた」、「まあ理解できた」との回答が合わせて91%に上り、またテーマの選出についても「とてもよかった」、「まあよかった」が合わせて93%に達するなど、参加者にとってたいへん満足度の高い公開講座となりました。

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
～北海道がん医療を担う医療人養成プログラム～

平成24年度 北海道医療大学 担当者

大学院看護福祉学研究科長

野川 道子 所属／看護福祉学研究科・教授

大学院薬学研究科長

平藤 雅彦 所属／薬学研究科・教授

地域がん医療薬剤師コース(インテンシブ) 責任者

齊藤 浩司 所属／薬学研究科・教授

がん看護コース責任者

平 典子 所属／看護福祉学研究科・教授

地域がん医療薬剤師コース(インテンシブ) 担当者

唯野 貢司 所属／薬学研究科・教授

がん看護コース担当者

川村 三希子 所属／看護福祉学研究科・教授

事務局

小野寺 貴洋 所属／学務部 部長

笠原 晴生 学務部教務課 課長

古林 琢子 学務部教務課 課長

丹羽 麻理子 学務部教務課

山本 佐知子 学務部教務課